

ハウス利用「オータムポエム・三陸つぼみ菜」の冬春どり栽培法

(園試 南部分場)

1. 背景とねらい

なばな類は冬春期温暖な県南部、沿岸地帯に適合した品目のひとつとして、生産振興が期待されている。

特に、近年野菜の消費動向が多様化し、目新しさ、健康野菜など機能性野菜が求められている中で、なばな類の需要の伸びは著しいものがある。

そこで、地域の立地特性を生かせる新品目として「オータムポエム・三陸つぼみ菜」について検討した結果、成果が得られたので指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

(1) 品種と作期、期待収量

品 種	播種期	定植期	収 穫 期	期待収量
オータム	8月下旬	9月中旬	11月上旬～2月下旬	2,000kg/10a
ポエム	9月中旬	10月上旬	12月上旬～2月下旬	1,700kg/10a
	10月中旬	11月上旬	12月下旬～3月中旬	1,000kg/10a
三陸	8月下旬	9月中旬	1月中旬～3月下旬	1,500kg/10a
つぼみ菜	9月中旬	10月上旬	1月下旬～3月下旬	1,500kg/10a
	10月中旬	11月上旬	2月中旬～3月下旬	600kg/10a

(2) 栽培法

ハウス 利用:ハウス栽培は露地に比べ収穫期が早まり、収量も多く、ハウスの効率的利用からも移植栽培とする。

育 苗:ペーパーポット等を利用し、本葉2～3枚の若苗定植とする。

栽 植 密 度:株間 30cm程度確保、5,000株/10a前後、透明または黒マルチを利用とする。

摘 芯:抽苔した主茎は、15～20cm程度に伸びてから、抽苔先端部分を摘芯する。

収 穫:抽苔した側枝は、下葉を1～2枚残して、23cm位で収穫する。

(3) 適応地域 県南部、中南部沿岸

3. 指導上の留意事項

(1) 土壌適応性は広いものの、酸性土壌や湿害に弱い。酸性土壌を矯正(pH 6.5～6.8)し、排水を良くし、保水力のある膨軟な土壌で栽培する。

(2) 10月中旬播種は収量は低下するが、果菜類の後作として導入しやすい。

(3) 施肥量は、前作の施肥の残効を考慮し、NPK成分で各10kg/10a程度、堆肥は2t程度とする。

(4) 充実した大きい株は太い側枝が発生し、多収となることから、抽苔前の生育量を確保する。

特に、オータムポエムは葉数8枚程度で抽苔するので、抽苔前の生育確保が大切である。

- (5) 収穫後半は品質が低下するので、播種期をずらした作型、品種の組み合わせで継続出荷を図る。
- (6) ハウスの温度管理は、日中は12~20℃とし、25℃以上にはしない。また、随時、換気する。
- (7) 収穫始め頃から、概ね、1週間に1回位の割合で灌水し、2~3週間に1回位は液肥500倍液を灌注する。
- (8) オータムポエムは寒さに弱く、三陸つぼみ菜は寒さにやや強いが、12月頃から厳寒期にかけて、低温により生育の停滞、寒害が見られるので、不織布のべた掛けや内部カーテンなどで保温する。
- (9) 鮮度保持は、FG袋、予冷庫利用が望ましい。

4. 試験成績概要

表1 オータムポエム

抽苔期の生育と収量					
試験年次	栽培区分	播種月日	播種60日草高cm	10a当り収量kg	
H2年	ハウス	9/21	53.6	2.111	
H3年	ハウス	8/30	45.3	2.108	
		9/14	41.2	1.757	
		9/30	20.0	1.651	
		10/15	12.0	1.108	

表2 三陸つぼみ菜

抽苔期の生育と収量					
試験年次	栽培区分	播種月日	12/6草高cm	1/7草高cm	10a当り収量kg
H3年	ハウス	8/30	56.7	66.3	1.447
		9/10	47.3	63.7	1.531
		9/20	40.7	56.0	1.309
		9/30	25.3	38.3	1.005
		10/10	11.0	31.7	682

表3 収穫茎の特性

項目	オータムポエム	三陸つぼみ菜
収穫時の外観	色彩・光沢 濃緑・有り	淡緑(煮沸後は濃緑)・無し
	花蕾の開花 有り(花色:黄色) 花卉落下しやすい	無し
	茎の堅さ 25cm以上でやや堅くなる	25cm以上でやや堅くなる
	茎径 やや太い	細い
	耐寒性 弱(寒さで茎が裂ける)	やや強(アフトン発生多い)
	収穫初期 茎長より葉が長い	茎長より葉が長い
	収穫後期 葉が短く茎長が長い	葉が短く茎長が長い
食味	甘味・食感 有り・良好	有り・良好
	苦味 無し	無し~わずか